

## 第2回新県民体育館整備等基本計画検討会 議事要旨

日時：令和7年9月3日（水）13:30～16:00

場所：高知県立高知城歴史博物館1階ホール

出席：委員11名中10名が出席

出席委員：刈谷委員、寛藤委員、高岡委員、玉乃井委員、久川委員、古谷委員、  
前田委員、丸委員、森委員、渡邊委員 ※坂本委員が欠席

オブザーバー：高知市教育委員会事務局 竹内教育次長、植田教育次長

議事：

### (1) ニーズ調査結果【報告】

- ・スポーツ需要
- ・イベント需要

### (2) 施設全体構成案

- ・配置シミュレーション
- ・日影規制を満たす建設可能範囲（高さ）について
- ・新しい県民体育館の整備に伴う集約化・機能移転のイメージ
- ・県民体育館プールの再整備の考え方
- ・イベント興行利用と県民利用の比率

### (3) 概算事業費【参考】

- (4) 整備の基本的な考え方
- (5) 防災機能のあり方
- (6) コスト削減対策
- (7) 収益化の見通しと対応

## 1 開会

## 2 議事

### 【(1) ニーズ調査結果【報告】】

<森委員>

・あなぶきアリーナ香川は観客席1万人に対し新県民体育館は5,000人。この5,000人とは有効席数のことか。

⇒玉乃井委員) あなぶきアリーナ香川は1万人の客席があるが、ステージを組むと約2,000席のスペースを使用するため、約8,000席前後の席数となる。

新県民体育館は最大5,000人収容だとするとステージを組むと約3,000席前後。採算が厳しいのではと思う。

<前田委員>

・第1回からも議論にあったように観客席の規模についてはその後どのような方向性となったか。

⇒県) 経緯を説明すると、令和6年度に県立スポーツ施設のあり方検討会の中でメインアリーナについては5,000人規模が望ましいという方向性が示された。また、Bリーグを誘致する際の条件でもある。7,000や8,000といった可能性については、今回お示したニーズ調査では、5,000席が妥当という意見も多く、メインアリーナ以外にいろいろな機能を入れると現有地の敷地面積には限りがある。ただ、建物の高さを上げていくと収容人数は増やせるので、基本計画としては5,000人規模と定め、設計の中で業者からよりよいアイデアが出てれば可能と考えている。

<刈谷委員>

・観客席の規模については、固定席、可動席の席数が示されているとわかりやすい。  
・Bリーグのとき、あなぶきアリーナ香川では何席になるか。

⇒玉乃井委員) 7,500席くらいと聞いている。

<高岡委員>

・前回の検討会で、市民の利用機会の身近な確保という観点から、市民や県民に対してニーズ調査をお願いしたい旨意見させていただいたが、今後予定はあるか。

⇒県) 一般の方に対するニーズ調査は想定していないが、パブリックコメントとして意見を収集する。プールに関しては利用者への聞き取りを行った。体育館については調査はしていない。

⇒前田委員) 関係者だけで議論するのではなく、パブコメに関しても幅広い意見の吸い上げができるといい。

⇒高岡委員) パブコメの前にも市民や県民に対してニーズ調査を行う機会の検討をお願いする。

⇒前田委員) 昨年度の検討会の他県事例でもあったようにワークショップのような市民県民と一緒に考えていくことも重要で、積極的に取り入れていただきたい。

<古谷委員>

・新県民体育館については県民も期待している。  
・ちばさんセンターで行っているイベントで、旭食品主催イベントがある。1,400人もの来場者があり出展は433社、うち400社近くが県外。イベント日前後はその来場者のおかげでホテルや飲食店は満席等、観光が賑わう。今のちばさんセンターは、老朽化しており駐車場はあるが、二次交通も課題。新県民体育館で同様のイベントが開催できれば、規模も大きくできるしアクセスもよく、まちづくりとしても経済効果は高

くなる。

・全国で開催されている見本市などのイベント。一般入場もあり、子ども連れも多数来場すると聞いている。大きな施設が完成すれば、開催可能ではないか。

⇒県) ちばさんセンターについても老朽化が進んでおり、現在商工の部署があり方を検討中。ちばさんセンターで開催しているイベントを新県民体育館でも開催可能かどうかとも検討していく。

<森委員>

・競技ごとにコートの取り方や、コンサートによって必要面積や有効席数が変わってくる。分野毎に整理したうえで、検討をしてみてほしい。アンケートをとるときも、聞く側と回答する側の認識を合わせるように。

⇒県) 各競技団体には、それぞれ必要なコート数を回答いただくように具体的に聞き取りを行っている。多機能で使える可能な限り有効席数 5,000 を目指して計画していく。

<刈谷委員>

・競技団体の今提出されているアンケートは、現在開催されている県内の大会の最大規模の話。将来的なプロリーグを意識した面積や規模は想定できていない。

・メインアリーナだけを検討すると大会運営しか考えられない。まずは県内のイベントが優先ではないか。このアンケートだけでは将来的なニーズは出てこない。次のステージでは、メインやサブアリーナの年間利用可能な日数がわかれば、各競技団体はイメージができると思う。

<前田委員>

・観客席については、固定席と可動席合わせてミニマムの設定ができれば、議論も進めやすいと思う。

<寛藤委員>

・武道は1月に年間の利用調整会議を行っているが、武道関係だけでも調整が困難。メインアリーナはこれにいろんな団体のイベントが入ってくると思うと調整は可能かどうか心配。

・新体育館落成に合わせてマスターズの大会等できれば利用したい。

## 【(2)施設全体構成案(3)概算事業費【参考】】

### 【高知市教育委員会 アスパルこうちについて】

<オブザーバー：高知市教育委員会事務局 植田教育次長>

(冒頭で、高知市「アスパルこうち」の施設概要、構成機関、利用状況について説明)

- ・令和8年4月「学びの多様化学校」開設。
- ・教育支援センターと学びの多様化学校は一体的に展開し、不登校支援の拠点となるよう計画している。
- ・グラウンドについては、高知市青年センターの青年活動のみならず、教育支援センターと学びの多様化学校がともに使用し、子どもたちに豊かな教育を展開するための空間であり必要不可欠。その規模としては、火災時の避難場所としての機能も鑑み、現状の半分程度の面積は最低必要。
- ・高知県から提案のあったアスパルこうちのグラウンドを使用する案が採用されるとなれば、青少年の健全な育成を図るための活動場所の確保、ならびに不登校の子どもたちへの学びの場の保証の観点から、使用不能となるグラウンド面積に相当する面積分について、改築される新県民体育館の屋上部分に人工芝を付設した運動スペースを設置し、教育支援センターみらいや学びの多様化学校の子どものための優先的な利用の確約を条件としたい。
- ・子どもたちの心身の健康に配慮し、光や風の流れを確保した建物とするとともに、県民体育館の敷地内に可能な限り自然植栽を配置する等、安らぎの空間づくりへの配慮をいただきたい。
- ・現在グラウンドは全面利用している団体もおり、仮にグラウンドが半減する場合においても、現在の使い方ができなくなるので、当団体においては旧南中高グラウンドの無償利用を配慮をいただきたい。
- ・高知市教育委員会としても県民体育館の整備の必要性は十分認識しているが、現在行政目的で利用している土地を提供するとなると、雨上がりでも屋外で運動可能な場所が新たに確保されるなど、現在の利用状況に付加価値を生むような整備がされなければ市民の理解を得ることは難しい。
- ・子どもたちの大切な教育施設が隣接しているということに配慮いただき、新県民体育館の運用開始後も県と市教育委員会で継続的に協議を行う体制を整えていただきたい。

<高岡委員>

- ・市議会から現段階の意見を紹介する。
- ①アスパルのグラウンドを含めた一体整備は難しいのでは。
- ②市の土地を活用することについて、県の方から説明に来るべきではないか。
- ③高知市教育委員会としてアスパルの有用性を主張すること。
- ④1,000人規模のかるぽーとでは有名なアーティストを呼べない。5,000人規模は賛成。

市は財源困難なため、県が建設することには賛成。

⑤市は無償貸与とのことであるが、興行の収入から市に使用料を払うという制度も検討してはどうか。

⑥アスパルこうちが中途半端な施設にならないようにしてほしい。機能を保つために全面移転を県に検討してもらうのはどうか。

⑦この規模の施設が本当に必要か。

⑧青年センターや教育研究所の本来の使用ができなくなるのは問題である。

⑨県民体育館にプールを設置しなければ問題は大きくなる。

⑩事業に反対ではないが、多様化学校の学習環境が充足できるのか。

⑪現地にプールの整備は必要である。アクセスもいい。

⑫県はこの土地を買うのか。市の財政難の時に無償貸与はいかがか。

⑬アスパルこうちの機能に支障が出ないように、きちんと申出をしないといけない。

⑭工事期間中の騒音等、子どもたちへの影響が心配。

・できたら市議会に対して県から説明していただく機会を設けていただくとありがたい。

⇒県) 高知市とも引き続き調整しながら検討を進める。

<森委員>

アスパルこうちについては、県所有の武道館が移転した跡地や旧南中高跡地への移設などを両者で合意があれば検討してもいいのでは。

⇒県) それは想定していない。

⇒高知市教委) 可能性は100%ない。

<前田委員>

・運営方法を考えたときに、経済効果を求める場合は、規模の大きさは重要な視点になる。この場所に大きな施設ができるということは将来高知県としても重要なことであり、県と市の双方で議論の継続をお願いする。

<寛藤委員>

・武道館の解体は決定か。

⇒県) 老朽化は進んでいる。施設全体が完成したら解体の話に進めるので、今後の整備手法によって時期は変動する。

<渡邊委員>

・プールの再整備について、障害者スポーツセンターのプールも老朽化のため、県民体育館へ集約化していただければ立地としては利用しやすくなる。

- ・障害者が利用する機能を有した屋外プールは全国の中で高知県のみ。
  - ・集約化した場合の障害者の利用については、身体的な部分を見せることになるので、利用時間帯等を調整するなどの一般利用者と区別が必要ではないか。
- ⇒県) 学校プール授業の集約化とも絡めて検討できたらと思う。集約化できれば曜日や時間帯で利用者を分ける等意見を聞きながら進めていく。

#### <高岡委員>

- ・現在のプールの利用者の意見を教えてほしい。高齢者の健康増進などで利用ニーズがあるため、市としては整備の検討をお願いする。
- ⇒県) 利用者に聞き取りを行っているので、残してほしいや新たなプールを希望する意見が多かった。集計したものは共有する。

#### <丸委員>

- ・県の整備でアスパルこうちのグラウンドを全面使用し代替案により付加価値がつけばベストという意味か。
- ⇒高知市教委) 半面は土のグラウンドを残してほしい。仮に半面を新県民体育館が使用した場合でも、その半面分のグラウンドを屋上人工芝等を設けてほしい。それが付加価値である。
- ⇒丸委員) 土のグラウンドは最低限半面必要だが、全面は今使用している団体があるので困るといことか
- ⇒高知市教委) 全面利用しているのは高校の部活動なので、南高校のグラウンドの優先利用をさせてほしい。半面使用している団体もあるので、土のグラウンドは最低限、半面は残してほしい。

#### <久川委員>

- ・1から4の案を拝見して、駐車場が少なすぎるのではないかと感じる。一般駐車場しか用意されていないうえにその絶対数も足りていない状況。搬入経路や関係者用が必要。メイン・サブ・武道館が並行してイベントが行えるような駐車場の想定、コストは増加するかもしれないが、垂直方向の検討（立体駐車場や地下）も必要では。
  - ・先の話になるが設計や運用の段階になってくると、イベント予約時期の問題が出てきて、学会や全国大会は2年前や3年前から予定があるイベントもあり、関係団体と調整が必要。
- ⇒県) 今の案では駐車場はどうしても少なくなっており、大幅に増やすことも面積の関係で厳しい。公共交通の利用促進が狙い。高知市の中でも民間駐車場は増えており、旧南中高の臨時駐車場としての活用も視野に入れている。

<玉乃井委員>

・例えばアスティとくしまでは、530 台の駐車場があるが、誘導や違法駐車取締りに多くの警備費用が必要になる。あなぶきアリーナ香川は一般来場者用の駐車場は用意しておらず、駅の駐車場や公共交通を利用している。高知でコンサートを行うときはとさでん交通においてもイベント時は協力いただいております、公共交通を促進することで近隣住民への迷惑行為も減る。

<前田委員>

・メインアリーナとサブアリーナの関係性について、メインを 5,000 人規模にし積極的に興行イベントを誘致した場合、P24 はニーズ調査を踏まえると②スタートかなと思う。床の形状に関しても、多機能なイベントに対応するために転換可能なことを考慮すると、現在主競技場で開催されているスポーツや大会の利用日数が実質減るので、新体育館ではサブアリーナで一定程度吸収しなければならない。競技団体としてはどうか。

⇒刈谷委員)

- ・サブアリーナの大きさについて、四国大会規模とはどういう規模か。
- ・大会運営する役員の人員にも限りがあるので、競技団体としては大会はできるだけカ所で完結するようにしてほしい。
- ・メインアリーナの床が土間の場合、日常を視野に入れるならば、サブはバスケットコート 2 面は必要。2 面取れば稼働率はかなり高くなると思う。

⇒県) 四国大会規模という表現については、高校の県体で言うと、学校の体育館で開催はするが、四国大会は開催できない。説明するときにはわかりやすいと思いつている。

⇒刈谷委員)

・大会規模はギャラリーのことをいう。大会をするには、公式なコートの面積がとればどこでも開催できる。一般公開するときには、表現をわかりやすいように。

- ・サブが 1,000 席を想定しているが根拠はあるか

⇒県) 計画でのサブアリーナは今の県民体育館の主競技場を想定している。1,000 席というのは、今のメインアリーナが 1,500 席程度のため、それよりも少し小さい規模を想定している。

<森委員>

前回の会議であった用途地域の制限はクリアしたのか？

⇒県) 用途地域の変更は、今後規模に応じて必要になる。

<丸委員>

- ・今回の議論を聞いていると案1から4以外の可能性もあると感じている。
- ・今後のステップとして、資料P24の興行とスポーツ使用の割合を、各競技団体と調整して決めなければいけない。各競技団体および通常利用者が最低限譲れないラインを具体的な数値で示すことができれば、興行利用の割合も決められるので、産業分野の参入判断ができるようになるのでは。

<前田委員>

- ・P24は現状で言うと②でスタートしつつ各関係者と調整し充足させていくことが望ましいと思う。
  - ・案の1～4に関する案3が望ましいように思えるが、アスパルこうちとの調整により、課題を整理し進めていただきたい。
- ⇒県) ニーズ調査を踏まえると一定の興行イベントが入ってくる可能性が高い。せっかく作る施設なので興行の割合を確保しつつ県外からも高知に来てもらうことが重要。スポーツとのバランスはしっかり検討していく。

<森委員>

- ・全国はアリーナバブル。四国も香川以外の3県が同時に計画をスタートしており、興行イベントの争奪戦。将来的な収益の見込み等がデータで表せたら良い。

<前田委員>

- ・運営方法を視野に入れた整備の検討ができれば、施設の方向性が決まり、方向性に沿った案が生まれると思う。にぎわいを作ることで、少子化対策や子どもたちにとっても夢のある施設となる。そういう循環が重要だと考えている。
- ・第3回の検討会では、本日委員から出た意見を集約し、案を整理いただけたら。

#### 【(4)整備の基本的な考え方～(7)収益化の見通しと対応】

<丸委員>

- ・基本方針に関して、(4)のシビックプライドを(1)に位置づけるのはどうか。現在スポーツに携わらない人、スポーツが好きではない人も、ここに来ることによって、心豊かな生活がうまれる場所であることが重要。ただ県民体育館が建て替えられたという印象ではなく、産業分野や子育て世代、すべての人の機会創出の場となることを押し出していく中で、スポーツが手段の一つであると考えてもらう。県民にとってシビックプライドの拠点になるようなものにすることが重要ではないか。

<古谷委員>

- ・イベント好きは県民性ということもあり、例でいうと中央公園は毎週土日入場料無料

のイベントで賑わっており、県外からも観光客が訪れている。人気なため、地下駐車場の時間延長を申し出るくらいである。新県民体育館も同様に、まちづくりの核となりイベントが展開できれば、県民も税金を払ってでも定期的にイベントが開催され利用できる実感があれば、意識がスポーツだけではなく心の潤いに繋がる。アリーナは時期や天候に左右されない屋内施設として有効活用できる。

- ・冒頭で述べたように、アリーナができればいろんな見本市のイベントが開催できる。
- ・高知市内では、後継者不足等の理由で更地が多くなっている。新県民体育館が整備がされるとそれに伴い周辺に民間の駐車場はたくさんできると思う。

#### <丸委員>

・税金負担に関しては、イニシャルコストに集中しがちだが、アリーナはいかに稼げるかということが重要で、収益化できないと維持管理として税金負担も増える。この先50年存在し続けるには稼げる施設でなくてはならない。そうすると整備方針の優先順位も今後議論の中で変わっていくだろう。スポーツ×エンタメは重要なキーワードな一方で、2020東京オリンピックで、エンターテインメントは平和のうえにあってこそ成り立つものであり、スポーツのためだけに税金を使うのかという世論は非常に大きな宿題だと感じている。そういう視点を踏まえて委員の皆さまにはご提案いただきたい。

#### <前田委員>

- ・シビックプライドという言葉はなじみがないかもしれないので、言葉を変えて打ち出していけばいいのでは。

#### <森委員>

- ・シビックプライドが先頭に来ることは賛成で、県民が共通して目指すことは重要。
- ・整備方針の中に防災の記述があることは県外のアピールになる。
- ・武道館の建設として、現地での建替や旧南中高跡地という案はないのか。

⇒県)今の武道館は狭くて全国大会ができない。武道の競技人口も減っている。新たに大きな武道館の建設も厳しい。集約化することで全国大会をするときはメインアリーナやサブアリーナも利用可能。

#### <寛藤委員>

- ・武道団体は、現在も場所が足りずに取り合いになっている状況なので旧南中高体育館の利用についても早めに情報共有いただければと思う。

#### <玉乃井委員>

- ・メインアリーナに関しては、様々な活用を考えると土間コンクリートの方が利用率は

上がると思う。

・コンサートを主催したことを想定すると、案にある憩いの場に観客が行列を作ることになるが、スペースとして対応できない可能性。サブアリーナや武道場ができると、グッズ販売等はどこでするのかという懸念がある。

<久川委員>

- ・(4) のシビックプライドは賛成。整理しやすいと思う。
- ・競技団体の視点からすると、土日の興行利用と県民利用の比率が9：1でかまわないのか。

⇒刈谷委員) 県民体育館の土日利用は県内の大会等で、現在も稼働率が高い。興行9は不可能。また、競技団体のイメージとしても今の県民体育館をイメージしている。メインアリーナとサブアリーナ両方の利用可能日数等が見えてくると具体的になる。

⇒県) P24では、あくまで「メインアリーナの」というイメージを想定している。サブアリーナの規模によって、使い方は変わってくる可能性がある。今はあくまで考え方という整理で資料作成している。

<前田委員>

・P24はあくまでメインアリーナにおけるイベント興行利用と県民利用の比率ということで、県として、パターン②の「4：6」以上を目指していく方向性は異論ないと思いますので、検討会として承認されたものとします。

・維持管理や税金投資の部分を考えると、採算の部分は重要で、一方で日常使いとのバランスを考えるメインアリーナの興行イベントとの割合は次のステップで議論になる。単なるスポーツや体育館という話のみではなく、まちづくりの一部としてアリーナを捉えていくことが重要。

・多少想定しているスケジュールではないかもしれないが、しっかり議論することが重要。

・基本方針については、(4) のシビックプライドを(1)に上げ、その他関連するところの修正をお願いする。森委員から意見があったように、防災の観点が上に来ても本県として先進的に捉える部分になる。

### 3 閉会